



福音讃美歌ジャーナル

福音讃美歌協会

新しい歌を
主に歌え

■巻頭言■「次の10年を見据えて」

福音讃美歌協会理事 飯田勝利

福音讃美歌協会は今年の7月で10周年になります。この10年のうちに『教会福音讃美歌』中型版、小型版が世に送り出されました。また、その使用環境は少しずつ整えられ、CD制作も開始して第2巻まで発売されました。では次の10年はどこに焦点をあてていくべきでしょうか。私は個人的に5つのことが大切だと考えています。

第1に、この歌集が広く用いられ、愛唱されることです。

第2に、正会員、準会員、賛助会員の会員数の拡大です。

第3に、この歌集がより使いやすくなる環境の整備です。

第4に、次世代の讃美歌作家、作曲家、編集者の育成です。

第5に、この歌集の次の改訂に備えていくことです。

第1の課題は2012年の歌集発行以来、常に祈られていることです。既にこの歌集を用いてくださっている方には愛唱讃美歌といえるものがいくつかあるかもしれませんが。また、この歌集は、教会だけではなく、ミッション・スクールなど様々な団体でも広く用いられることを願っています。

第2の課題である会員数の拡大は、当協会の事業活動にも関わる第3、第4、第5の課題を十分に行うために必要とされています。なぜなら、会員数の拡大は祈りによる霊的支えを厚くするとともに、経済的な基盤の確立にもつながるからです。

正会員、準会員への入会はこの10年で変化がありませんでした。しかし、讃美のために主に仕える当協会の10年の働きと証しを見聞きしながら、当協会に加入することを祈っていただいている教会・教団・教派、あるいは、超教派団体・グループ等があるかもしれません。主がみこころのうちに、共に重荷を負ってくださる方々を導いてくださいますように祈っています。

賛助会員数は2014年6月現在で12教会、32名の個人となっています。これは、当協会が設立して2年後の2007年7月時点で9教会、16名の個人であったことを考えると、微増にとどまっていると言えます。教団や教派で正会員に加入していると、その団体の各個教会や個人がさらに賛助会員として加入するということが、積極的な意味を見出せないかもしれません。また、一教会や自分1人が加入しても大して変わらないのではないか、と思う方もいるかもしれません。しかし、5千人の飢えを満たしたのは、少年が持っていた5つのパンと二匹の魚であったことを思い出していただきたいのです（ヨハネ6:1-14）。

どんなに小さなささげものでも、それを主イエスにおささげする時、それは御業のために、主の御手の中で用いられます。次の10年を見据える時、主が、賛助会員として共に讃美の重荷を分かち合っていただけの教会や個人を、皆様の中から起こして下さるようにと祈っています。

CONTENTS

	頁
・巻頭言	飯田勝利 1
・ふくいんさんびか Q&A No.1	2
・『教会福音讃美歌』編集作業の道のり	
第4回	中山信児 4
・日本語サイバーヒムナルプロジェクト	5
・INFOMATION	6
・会計報告	7
・ハレルヤぼうや	Yukiko 8



ふくいさんびか Q&A No.1

『教会福音讃美歌』が出版されてから、もうすぐ3年になります。これまで多くの方に用いていただき、たくさんの反響をいただきました。その中に、いくつかの質問がありました。

これから何回かに分けて、寄せられた質問にお答えしたいと思います。新しい質問も受け付けていますので、次のアドレスまでお寄せください。(info@jeacs.org)

Q1. 『教会福音讃美歌』にしか入っていない讃美歌はどれくらいありますか。

A1. 今もいろいろな讃美歌集が改訂されたり新たに出版されたりしていますので、正確な数を上げることはできませんが、私たちが他の歌集からそのまま借用した讃美歌はおよそ300曲あります。残りのおよそ200曲が「この歌集にしか入っていない讃美歌」と言えるでしょう。その内訳は、歌詞を新しく翻訳したもの、歌詞と曲の組み合わせを変えたもの、そして新作あるいは日本の大きな讃美歌集に初めて収録された曲です。最後のものは多くの方にとって耳新しいものになりますが、およそ70曲あります。

実際の曲目についてはホームページ (<http://jeacs.org/>) の「収録曲一覧」で確認していただくことができます。「備考」欄の「◎」は他の歌集からそのまま借用したもの。「改訳」は既に訳されている歌詞を改訳したもの。「翻訳」は初めて日本語に翻訳したもの。「作詞」はこの歌集のために新しく作ったもの。空欄は大きな歌集に掲載されていない既存の讃美歌です。

Q2. 知らない讃美歌がたくさんあるのですが、どこかで聞くことができますか。

A2. ホームページの「収録曲一覧」にある音源ファイルで、全506曲中324曲の音楽を聴くことができます。他にも、インターネットで検索すると多くの讃美歌の映像や音源を視聴することができます。讃美歌のタイトルで検索するか、楽譜の左下にある「原詞初行」または右下にある「曲名」で検索してください。

また、いのちのことは社ライフクリエイションから『教会福音讃美歌』CDが出ています。第1巻「礼拝を豊かに」と第2巻「新しい歌」が発売中。第3巻「降誕」がこの秋発売予定です。『教会福音讃美歌』にしか収録されていない讃美歌を中心に、あと2年かけてCD5巻で約100曲を紹介していく予定です。

Q3. インターネットやデジタルの時代に紙媒体の讃美歌集を作ることの意義は何ですか。

A3. インターネットやデジタルの時代とは言え、まだそれらを使いこなせない方は少なくありません。讃美歌は教会の共有財産であり、教会に集うすべての人に用いられるものです。今の時代、より多くの人に安心して使っていただける形態を考えると、やはり紙の本になります。私たちは、まず本のかたちで出版することから始めましたが、他にも点字版讃美歌やCDなどを作って、さらに多くの人に用いていただけるよう努力を重ねています。

讃美歌のデジタル化についても検討しています。デジタルデータは利用者にとっても製作者にとっても便利で手軽ですが、そのために作品の編集・改変や複製が手軽に頻繁に行われるようになると、利用者が混乱したり、製作者の権利が侵害されることも起こりえます。そのような課題をクリアするためには、しっかりした知識と技術とコストが必要になります。諸教会の祈りと協力の中で引き続き取り組んでいきたいと考えています。

Q 4. 歌詞が全般的に口語になっているのはどうしてですか。分かり安い反面、格調が失われた感じがします。

A 4. 古い讃美歌の多くは文語調で格調を重んじていました。ただ、日本語が大きく移り変わる中で、格調は感じるけれども意味が分からないという讃美歌も増えてきました。私たちは歌いやすさや美しさを大切にしながら、意味が理解できることをより優先しました。格調の面で古い讃美歌とならぶ歌詞を創作することは大変困難ですが、継続して、分かりやすく、歌いやすく、格調の高い讃美歌の創作に取り組んでいます。

Q 5. 口語と文語が混在している歌詞があるのはどうしてですか。

A 5. ことばは生きており、時代の流れらの中で徐々に変化していきます。口語と文語の境目ははっきりとした一線があるわけではありません。現代の詩人や歌人にも、古いことばや言い回しを現代に用いることで新しい表現を生み出している人たちがいます。

同時に、日本語の讃美歌詞には文字数やイントネーションなど大きな制約があります。その制約の中で分かりやすく歌いやすい歌詞を創作するためには、口語の中に古いことばや言い回しの助けを借りることが有益であると判断しました。新しい時代に、信仰を表現するにふさわしい日本語讃美歌の文体を形作っていく作業は、この国に置かれた教会の大切な使命であると考えています。

Q 6. 伴奏譜が載っていない讃美歌がありますが、どうしてですか。どのように伴奏すればよいでしょうか。

A 6. 新しい讃美歌の中にはメロディーとコードだけで作曲されているものがあります。また伝統的に単旋律（メロディーだけ）で伝えられている讃美歌もあります。そのような讃美歌には伴奏譜を付けませんでした。

伴奏譜が載っていない讃美歌にはコードが付いていますのでコードを見て伴奏していただくことができます。また、年内には、そのような讃美歌の伴奏楽譜を出版する予定ですので、ぜひご利用ください。

Q 7. 讃美歌はどんな楽器で伴奏すればよいでしょうか。

A 7. 讃美歌には、作られた時代や背景によって特定の伴奏楽器が想定されているものがあります。しかし、どんな場合にも必ずその楽器で伴奏しなければならないという決まりはありません。古い讃美歌をギターやバンドで伴奏することもできますし、コンテンポラリーでポップな讃美歌をパイプオルガンで伴奏することもできます。世界を見渡すと、管楽器や弦楽器のアンサンブルやオーケストラ、また民族楽器で会衆讃美の伴奏をしているところもあります。それぞれの教会と会衆にふさわしい楽器で伴奏してください。その場合でも、それぞれの讃美歌の背景や音楽的な特徴を理解するとより良い伴奏ができます。

Q 8. 子ども讃美歌は入っていないのですか。

A 8. 『教会福音讃美歌』は、主日礼拝で歌う讃美歌を中心に編集されています。子どものためだけの讃美歌は選びませんでした。礼拝で子どもも大人も一緒に歌える讃美歌は多く収録されています。全体的に讃美歌の歌詞が口語化されて分かりやすくなりましたので、子どもが歌える讃美歌は今までよりも多くなっています。歌詞の漢字表記やルビも小学校高学年が読んで歌えるように配慮していますので、教会学校や中高科などでも年齢に応じて使っていただくことができます。

1. 選曲

資料収集の次は収集した資料を用いての選曲になります。選曲には二つの段階があります。

第一段階は、私たちの目的にかなった讃美歌を数に制限を設けずに選び出す作業。そのために手元の資料すべて（数十冊の讃美歌集に収められた数千曲の讃美歌）に目を通しました。特に日本語の讃美歌集は、歌詞や楽譜を読むだけでなく、収録曲を実際に声に出して歌うようにしました。車の良し悪しが最終的には乗ってみないと判断できないように、讃美歌の良し悪しも実際に歌ってみなければ分からないところがあるからです。さらに既存の歌集に載っていない讃美歌も収集し、インターネットを介して讃美歌委員の間で共有できるようにしました。

選曲に際しては、讃美歌を四段階（◎必ず採用、○採用したい、△採用しても良い、×採用しない）で評価しました。その後の許諾交渉や目次構造毎のすり合わせで、採用したいけれどもできない曲が出てきたときには「△採用しても良い」曲が繰り上がることになります。またまったく変更を加えずに採用するのか、改訳や編曲を施して採用するのかも大体の見当を付け、依頼できるものは翻訳を依頼しました。

この段階ではまだ新しい讃美歌集の設計図はできあがっていません。既存の讃美歌集を参照しながら、どんな讃美歌からどんな讃美歌集ができるのかを学んでいるような段階でした。

このようにして選び出された讃美歌はおよそ1000曲ありましたが、その書誌的データ（タイトル、原詞初行、曲名、作詞者、作曲者、訳者、収録歌集、著作権者、他）を、ファイルメーカーというソフトを使って順次データベース化しました。このデータベースは最後まで楽曲管理の土台となったばかりでなく、最終段階で目次や各種索引を作るときに用いられました。

『教会福音讃美歌』の巻末索引データの90%以上はこの時に打ち込まれたものです。

選曲の第二段階は、第一段階で選んだおよそ1000曲を実際に歌集に収録する曲数まで絞り込む作業です。この作業は1年以上かけて、他のいろいろな作業と並行して行われました。その一つは、歌集全体の構造をきめる作業です。さまざまな用途の讃美歌をバランス良く収録するためには目次の構造を決める必要があります。そのため、我々の信仰や礼拝観と比較的近い内外の讃美歌集を参照しながら、目次構造を決定し、それぞれの目次項目にふさわしい曲数の見当を付けました。それと連動して歌集の大きさを決める作業も行いました。出版社との協議の中で歌集のおよそのページ数が決まり、そこから収録できる曲数も500曲程度と見積もることができました。絞り込みの段階で諸教会に採用予定曲のリストを提示して意見や希望や批判を受け、それを選曲に反映しました。

先に記したように、翻訳作業はすべての収録曲が確定する前に始まっています。ですから、良い翻訳ができたけれどもいろいろな事情で採用できなかったものもありました。逆に採用を決めて翻訳作業に入ったけれども良い翻訳ができなかったために不採用になったものもあります。また目次構造が決まっても、ふさわしい数の讃美歌が揃わないこともありました。その場合には讃美歌委員で新しい讃美歌を作り、委員会でその讃美歌の採否を検討しました。他に、著作権上の誓約や問題で採用できなかった讃美歌も相当数ありました。

このように様々な問題が複雑に絡み合う中で、最終的に『教会福音讃美歌』に収録されている506曲の讃美歌が確定していきました。

COMING
SOON!!

「日本語サイバーヒムナル・プロジェクト」 (仮)

" The Cyber Hymnal™ " (<http://www.hymntime.com/tch/>) は1996年に始まった讃美歌のデータサイトです。現在、さまざまな教派や国の讃美歌やゴスペルソングのデータを10,500以上提供しています。

この度、福音讃美歌協会では『教会福音讃美歌』収録の讃美歌と讃美歌作家のデータ（歌詞、楽譜、音源、画像、作者伝記、讃美歌の来歴等）を、インターネットで提供するためのプロジェクトを立ち上げました。今から3年計画で " The Cyber Hymnal™ " に収録されている当該データを翻訳し、収録されていないデータを書き下ろす予定です。今回は作者データを翻訳したものと讃美歌データを書き下ろしたものをサンプルとしてご紹介します。

チャールズ・ウェスレー Charles Wesley (1707-1788)

誕生：1707年12月18日、英国リンカーンシャー、エプワース

死亡：1788年3月29日、英国ロンドン

埋葬地：英国ロンドン、メルルボーン教区教会

Charles Wesley は6,000を超える讃美歌詞を書いた。他の讃美歌作者同様、彼の作品も何度か書き換えられている。1779年版『メソジストと呼ばれる人々のための讃美歌集』に兄のJohnが以下のように書いている。

「私はずっと心の中にあった思いを書き留めたい。これはずっと以前に公にしておくべきだったが、蜂の巣をつつくことは願っていなかった。多くの紳士方が弟と私が（指名はされなかったが）、多くの讃美歌を再版する荣誉を与えてくださった。心からそうして頂きたいのだが、できることならそのままの状態で再版して頂きたいと願う。私は彼らが修正を加えてほしくないし、また彼らにはその能力がないと思う。彼らには感覚的にも、詞自体も変えてほしくない。私がお願いしたいのは、歌詞をそのままにしておくか、善かれ悪しかれ、変えたのであれば行間か、ページの下部に、もとの詞を書いておくこと、そして、我々が誰かほかの人のセンスのない、または下手な詞の責任を取らないでよいようにして頂きたい、ということである。」

『教会福音讃美歌』収録作品

- | | |
|---------------------------------------|-------------------------|
| 1.And Can It Be That I Should Gain? | 「なぜこの私に」 (315番) |
| 2.Author of Faith, Eternal Word | 「信仰の創始者」 (346番) |
| 3.Christ the Lord Is Risen Today | 「キリスト・イエスは」 (142番) |
| 4.Come Away to the Skies | 「起きよ喜べ」 (236番) |
| 5.Come, Thou Long-expected Jesus | 「主の民久しく」 (62番) |
| 6.Hail the Day That Sees Him Rise | 「たたえよこの日」 (140番) |
| 7.Hark! the Herald Angels Sing | 「栄光とわに 王なる御子に」 (89番) |
| 8.Jesus, Lover of My Soul | 「愛するイエスよ 受けとめたまえ」 (51番) |
| 9.Lo, He Comes with Clouds Descending | 「見よ、主は雲に乗って」 (159番) |
| 10.Love Divine, All Loves Excelling | 「あめなるよろこび」 (328番) |
| 11.O for a Heart to Praise My God | 「罪から解かれて」 (243番) |
| 12.O for a Thousand Tongues to Sing | 「主イエスの恵みとみ栄えとを」 (254番) |
| 13.Rejoice, the Lord Is King | 「喜べ主を」 (224番) |
| 14.Ye Servants of God | 「しもべらよ、み声きけ」 (226番) |

359 私の望みは主イエスだけにある In Christ Alone
作詞：Stuart Townend (1963-)、作曲：Keith Getty (1974-)

"In Christ Alone" はスチュアート・タウンエンドとキース・ゲティの代表作です。キリストの生涯を証しする現代讃美歌として、2001年にタウンエンドが詞を、ゲティが曲を書きました。タウンエンドは、聖書に出てくる様々な表現を用いながら主イエスへのまったき信頼と救いのみわざを力強く歌っています。ゲティの曲も歌詞と見事に一致しています。

タウンエンドはイギリスで牧師の家庭に生まれました。タウンエンドの讃美歌の特徴は、神学的な深みと詩的な表現を合わせ持ったその歌詞にあります。ゲティはダラム大学で音楽教育を受け、今はアメリカに拠点を置いて、妻であるクリスティンとともに精力的に創作、演奏、教育活動を行っています。

2012年にアメリカのある教派の讃美歌委員会は、"In Christ Alone" を新しい歌集に収録する条件として、2節の「み神の怒り (the wrath of God)」ということばの変更を求めました。その神学が若い世代の信仰形成にふさわしくないというのが理由でした。タウンエンドとゲティはみことばと自らの信仰に立って歌詞の変更を許可しませんでした(ローマ5:9)。結果として、"In Christ Alone" はその歌集には収録されませんでした。タウンエンドとゲティは福音的な諸教会からの信頼を深めることになりました。そして、この讃美歌は今も英語圏で最も愛され良く歌われている讃美歌の一つです。

❖ INFORMATION ❖

♪ CD『教会福音讃美歌 vol.3 -降誕-』（9月発売予定）

収録曲（順未定）

61 神のみ子は世に来られた	
62 主の民久しく	
64 喜べ、主をたたえよ	演奏
68 いかにしてわれ 主を迎える	
71 世の造り主は	塩谷達也 (Vo, G, 鈴)
72 ひとり子なる主 とわの父の	松本優香 (Vo)
73 幼子が飼い葉桶	
75 静かに眠れるベツレヘムよ	西由紀子 (ソプラノ、指揮)
78 貧しい馬屋の中	宇内千春 (オルガン)
80 野に伏す羊を見まもる牧人	フェリス・フラウエンコーア
81 飼葉おけに眠る	
82 降誕のキャロル	スコット・ショウ (指揮)
84 かいばおけの干し草に	立教学院諸聖徒礼拝堂聖歌隊
89 栄光とわに 王なる御子に	他
92 人みな喜び歌い祝え	
99 貧しい馬小屋 母にいだかれ	
102 主は豊かであったのに	

♪ 讃美歌についての集会を企画してみませんか。

礼拝説教、伝道会、修養会、讃美についての学び、音楽奉仕者の研修や講習などに、福音讃美歌協会の理事、讃美歌委員を派遣いたします。ぜひお招きください。
お問い合わせ：info@jeacs.org tel.03-5341-6920 fax.03-5341-6921 (いのちのことば社)

＊ 会 計 報 告 ＊

2014年4月-2015年3月

■収入の部■

科 目	2014年度予算	2014年度実績
会員負担金	1,210,000	1,203,000
正会員	750,000	750,000
準会員	60,000	60,000
賛助会員	400,000	393,000
自由献金	230,000	163,000
その他	190,000	170,203
当年度収入合計（A）	1,630,000	1,536,234
前年度繰越金	1,190,885	1,190,885
収入合計（B）	2,820,885	2,727,119

■支出の部■

科 目	2014年度予算	2014年度実績
理事会費	110,000	93,091
委員会費	520,000	220,161
人件費	360,000	360,000
事務費	395,000	281,442
ジャーナル発行費	420,000	425,388
カンファレンス開催費	200,000	0
総会開催費	20,000	8,628
JEA関係費	35,000	35,000
予備費	50,000	0
当年度支出合計（C）	2,110,000	1423,710
当年度収支差額（A）-（C）	- 480,000	112,524
繰越額／残高（B）-（C）	710,885	1,303,409

【賛助会費納入者】（2014年4月～2015年3月）

世田谷中央教会、菅生キリスト教会、都賀キリスト教会、馬天キリスト教会、大宮キリスト教会、栗橋キリスト教会、キリスト教朝顔教会、浜田山キリスト教会、（8教会）
 刑部照美、福田崇・愛子、稲垣博史・緋紗子、倉富隆子、横倉知恵、田村勉、石川岩夫、高橋和江、大瀧忠子、小林義正、藤本侃也（11件）

【献金者】（2013年4月～2015年3月）

武蔵台キリスト福音教会、川越聖書教会、日本福音キリスト教会連合、大磯キリスト教会、泉キリスト教会、古河教会、小林由貴子、山村雅彦、西川晴子（9件）

お名前の掲載を希望されない場合は、通信欄に匿名希望とお書きくださるか、メール（info@jeacs.org）で、その旨をお知らせください。

ハレルヤほうや

by_YUKINKO



福音讃美歌協会・会員募集

◇会員の種別は、以下の三種類です。

正会員（教会・教団・教派等）、準会員（超教派団体・グループ等）、賛助会員（趣旨に賛同し支援して下さる教会、個人等）

◇賛助会員のお申し込みは、入会申込書をご請求いただき、必要事項をご記入の上、郵送またはFAXでお送りください。承認後、年会費のお振込みにより入会が完了致します。

◇正会員、準会員のお申し込みにつきましては、協会へ直接お問い合わせください。

◆郵便振替口座◆

番号 00220-1-95127

名称 福音讃美歌協会

◆郵便貯金口座（ぱるる）◆

番号 10500-82654721

名称 福音讃美歌協会

◆銀行口座◆

みずほ銀行 ユーカリが丘支店

普通預金 口座番号 1604668

名称 福音讃美歌協会

福音讃美歌協会 JEACS

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2-1
OCCビル 602号室

tel.03-5341-6920 fax.03-5341-6921

(いのちのこば社出版事業部内)

ホームページ <http://jeacs.org/> メール info@jeacs.org

From Editor 編集後記

今年の1月に日本キリスト教団讃美歌委員会の呼びかけによる「讃美歌・聖歌担当者懇談会」が都内で開かれました。讃美歌や聖歌の編集発行に関わる者たちが、教派を越えて一堂に会する貴重な機会でした。懇談では互いの教理や教会観の違いを尊重しつつ、共通する課題や情報を分かち合うことができました。福音派の参加は私たち福音讃美歌協会だけでしたが、讃美歌集に恒常的に取り組んでいる方々との懇談は、刺激的かつ有意義なものでした。

その中で二つのことに取り組むことが合意されました。一つは翻訳讃美歌の問題で、ひとつの原詞が教派や歌集毎にさまざまな翻訳で紹介されている現状を少しでも交通整理するための試みです。まずは次回の懇談会で讃美歌をひとつ選んで皆で共通の訳詞を作ってみようということになりました。作業を通して各々が何を大切に、どこで譲歩できるのかが明らかになることでしょう。

もう一つは、現在、日本で紹介されているすべての讃美歌・聖歌の著作権データベースを構築しようという試みです。このためのしつかりした体制を作ることができれば、今後の讃美歌集編集作業にとってプラスになるだけでなく、諸教会の讃美歌利用にも大いに役立つものとなるでしょう。

いろいろと夢を膨らませることのできた懇談会でした。

(な)